

第2回津島市地域福祉えがおのまち計画策定委員会 議事概要

日時：令和2年9月30日（水）

午後2時～

場所：津島市総合保健福祉センター

3階 第1会議室

出席委員：平野委員長、片岡副委員長、黒田委員、浅井（彦）委員、濱田委員、日比委員、見廣委員、花井委員、仲本委員、八谷委員、浅井（厚）委員、沢田委員、山本委員、水谷委員、村上委員

欠席委員：野田委員

傍聴人：0名

<次第>

1. 市民アンケート調査等結果について
2. 計画骨子（案）について
3. その他

1. 市民アンケート調査等結果について

事務局より説明

<質疑等なし>

2. 計画骨子（案）について

事務局より説明

委員： 地域福祉を進めていくうえで、個人情報かわからないから支援できないといった問題が出てくると思う。どう対応するのか。

事務局： 個人情報保護の観点から、市から地域への情報開示については難しい。しかし、避難行動要支援者名簿については、災害時においては非常時ということで、本人の同意、非同意に関わらず支援のため情報開示されることになる。

委員： ある町内は世帯数が多く、担当の民生委員が4～5人いる。どの地域をどの民生委員が担当しているのか分からない。

事務局： 民生委員についても個人情報の絡みがあり、どこまで周知するか民生委員の中でも話し合っているものの、地域住民が担当の民生委員が分からないという状態は望ましくなため、周知の方法については、今後検討していく。

委員： 前期計画を実行していく中で何が得られたか。地域の強みは何か。逆に、地域の弱みは何かいうことを次の計画につなげていくことが重要。計画の連続性をまとめたものが見たい。対象とする範囲が広い計画であるため、非常に総花的になりやすい。重点を絞って、あるいは優先順位をつけて、確実に

実行していかなければならない。今回策定する計画で重点的に取り組むものを示してほしい。また、課題をどうやって解決していくのか具体的な取組は何か。

事務局： 本計画は地域福祉の推進に向けて取組の方針を定めるとした位置づけであるため、計画書への具体的な事業内容の掲載は考えていない。進捗管理をしていくため指標とする事業については次回の策定委員会で示したい。

委員： 各地区で定期的にサロンが開催されているが、今は新型コロナウイルス感染症の関係で開催できない場所もある。定期的ではなく、また定められた場所以外で集える機会があれば地域の活性化につながると思う。

事務局： 意見としていただく。

委員： 国ではデジタル庁といった話が出ている。地域福祉の推進にあたり情報提供や意識啓発をするのに、デジタルといった視点も必要ではないか。

事務局： すぐに実現可能であるとは断言できないが、時代の流れとしてデジタルの視点が必要であることは認識している。今後、意識して事業を実施していきたいと考える。

委員： 基本理念にある地域共生社会は非常に素晴らしいテーマである。障がい者や外国人は非常に困難を抱えており支援が必要だと感じているため、支援が充実すると良い。また、福祉と防災の問題は大変大事なところだと思うので、うまくまとめてもらえたらと思う。

事務局： 取組の方針としてまとめていく。

委員： 例えば、若い人たちと70歳以上の方が求めている地域福祉のあり方は違うと思う。年代ごとに地域福祉の取組が書かれていると、読む側としてはわかりやすいのではないか。

事務局： 現在のところ、年代別の方針を示す予定ではないが、どのような書き方ができるか再検討し、反映できる場所はしたいと思う。

3. その他

委員： 情報共有として報告する。私が暮らす地域では、地域包括支援センターと連携し認知症による徘徊者の搜索模擬訓練を行った。この訓練はとても参考になり良かったと思うので、いろいろな地域で実施してほしい。

委員： アンケート結果については一般の方々が知ることはないのか。市のホームページ等に載せると、協力してくれる方々が増えるのではないか。

事務局： 市民アンケート調査の結果については、市ホームページに掲載予定。

その他、事務局より次回策定委員会の開催時期について事務連絡。